

# Concert Reviews

## 田崎悦子 P

命日にささぐ「マズルカを中心に綴るシヨパンの生涯」と題して、曲目は「ノクターン」ホ短調、「マズルカ」嬰ハ短調Op 6-2、「幻想曲」ヘ短調、「幻想ポロネーズ」、「マズルカ」イ短調Op 67-4、同ヘ短調Op 68-4など。シヨパンの道標といえるマズルカより13曲を中心に「幻想曲」や「ポロネーズ」などを配した構成。まず田崎の構成力の至妙さを感じ、シヨパンへ仰ぎ慕う田崎の胸中がこの構成からもうかがえる。それはシヨパンの遺風を景仰した演奏会であった。田崎の表現語彙の豊かさや作品への闊達な対峙は彼女持ち前の大きな魅力であるが、それに加え、内から湧き上がる深い精神性を漂わせつつ深淵から見据える玄妙なタッチと運びが全体の中でも際立った。特に後半最後、続けて演奏されたOp 67-4と絶筆のOp 68-4は、シヨパンの心の奥底にあったであろう呻きの声を田崎なりに変換し、理性と感情の均衡を保ちながら弾き進められ圧巻。命日に捧げられた、まさにメモリアルイヤーに相応しいシヨパンの精髓を垣間見た。(10月17日・東京文化会館〈小〉) 〈高山直也〉